

科目名	担当教員名	学期
原価管理論 Cost Management	大塚 泰雄	冬季 集中
目的	一般的な製造業における基礎的な原価のしくみを理解し、原価管理の必要性・活用のしかたを企業の適用事例などを中心に説明し、原価管理の実践に役立つ知識を身につける。	
概要	原価の基礎知識を身につけ、原価計算の目的・方法を明確にし、経営への応用方法・標準原価管理の必要性について学ぶ。また、原価管理を成功させるためのシステムの考え方、企業での具体的な原価管理の進め方を事例で解説し、昨今増大しつつある間接費の原価管理の必要性と意思決定のための経済計算についても学ぶ。最後に上流段階である開発設計段階における原価管理の重要性と原価企画の進め方について、企業の事例を含めながら解説を行う。	
到達目標	原価管理における“標準”の意味を理解し、あるべき原価管理の姿を把握すること。	
成績評価の 基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は講義開始時にとり成績へ反映させる。 ・講義の内容に関連したレポートを1回課す。 ・テストは小テストを2回行う。 ・グループ演習を2回行い、結果を成績へ反映させる。 ・成績は上記項目の合計で評価する。 	
履修条件	特になし。	
授業計画		
第1日	1. 原価のしくみを覚えよう ー何のために原価計算をするのか (1) 利益はどのようにして生まれるのか (2) 製造原価・売上原価・総原価とは (3) 財務会計上・管理会計上の原価の分類 (4) 直接費・間接費とは何か (5) 製品別の実際原価計算 (6) 各部門の原価計算の目的は何か ■練習問題	
第2日	2. 製品別原価計算に必要な知識を身につける ー原価計算結果を経営に役立てる (1) 迅速かつ正確な原価を見積もるには (2) 材料単価・材料消費量を計算する (3) 加工賃率（加工費レート）の意味と設定 (4) 設備費・開発費を計算する (5) 損益分岐点・限界利益の考え方と活かし方 (6) 付加価値・付加価値率の考え方と活かし方 □第1回グループ演習	

<p>第3日</p>	<p>【第1回小テスト】</p> <p>3. 標準原価設定と標準原価管理システムの考え方 ーロスを見える形にする標準原価管理システム</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 誰が原価を管理するのか (2) 何をすればコストが下がるか (3) どれくらいコストが下がるか (4) 標準原価管理システムの考え方 (5) 標準原価管理システムのステップ (6) 標準原価による原価情報の一元化 <p>■練習問題</p>
<p>第4日</p>	<p>4. 究極の製造原価を追求するポイント ー具体例でコストダウンのポイントを把握する</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 購入価格の低減策 (2) 不良低減・歩留管理によるコストダウン (3) 貸率ロス・時間ロスの低減 (4) 工数・設備向上によるコストダウン (5) 製造経費低減によるコストダウン (6) 操業計画に基づく長期と短期のアクション <p>■練習問題</p>
<p>第5日</p>	<p>5. 間接費の原価管理に有効な ABC/ABM の活用 ー10倍の格差がある間接生産性の管理の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 間接業務の生産性はなぜ低いのか (2) ABC・ABM とは何か (3) 業務量調査と間接業務の標準化 (4) 間接費の管理余地と改善余地 (5) 間接生産性を測ってみる (6) 間接業務を見えるようにする <p>□第2回グループ演習</p>
<p>第6日</p>	<p>【第2回小テスト】</p> <p>6. 実践的な原価企画とコストダウンの進め方 ー原価企画に欠かせない管理技術 VE と活用法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 原価企画の意義と目的 (2) 製品の目標売価・目標利益率の設定 (3) 製品の見積原価の設定 (4) VE とは何か (5) 目的機能追求と機能の定義 (6) 機能評価とアイデア発想法 <p>■まとめ</p>

<p>テキスト 参考書等</p>	<p>テキスト：講義の都度、教材を配賦する。 参考図書：「トコトンやさしい原価管理の本」 大塚泰雄著 日刊工業新聞社刊</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>特になし。</p>